

用意するもの

- ◆ ダンボール箱 2箱
(10kg入りのみかん箱ぐらいの大きさが適当)
- ◆ 紙製ガムテープ (クラフトテープ)
- ◆ ピートモス 10～15リットル
- ◆ もみがらくん炭 10リットル
- ◆ 棒状温度計 100℃計
- ◆ かくはん用の道具 (へら・しゃもじ・ゴム手袋等)
- ◆ はかり ・投入生ごみ測定用 (2kgぐらいの調理用等)

ダンボール箱の組み立て方

2

底、すきま部分は紙製ガムテープで
とめ、持ち手部分を内側からふさぐ



上ぶたを立ち上げ紙製ガムテープで
とめる



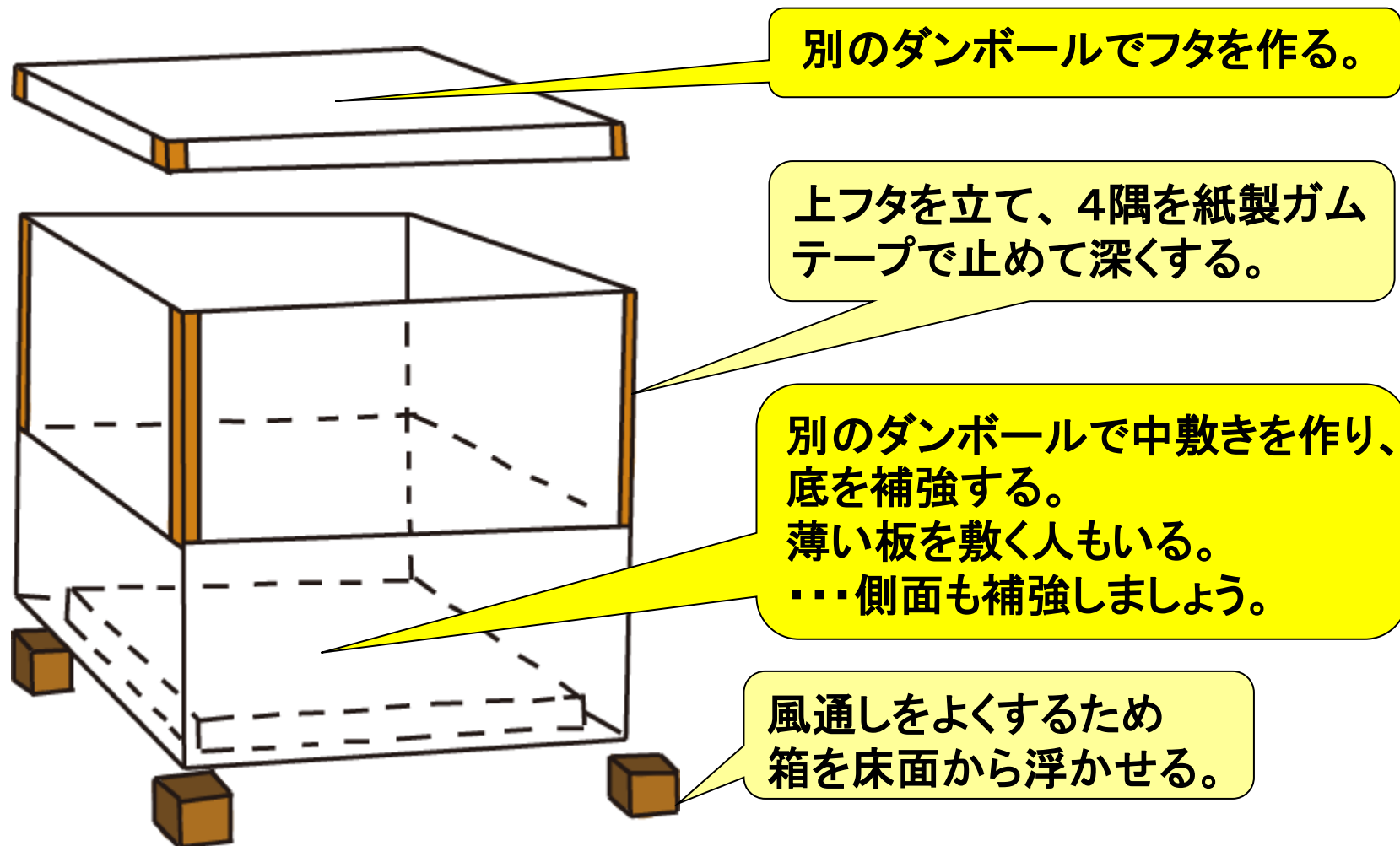
別のダンボールで中敷きを作り
底を補強する



別のダンボールでふたを作り完成



ダンボールコンポスト完成図



つくりかた

- ダンボールに**ピートモス:6(12ℓ)**、**もみがらくん炭:4(8ℓ)**の割合で混ぜたものを20ℓほど入れる。

ポイント



牛乳パック(1000ml)を使って、ピートモス12杯、もみがらくん炭8杯を入れると20ℓの基材が簡単につくれます。

- その中に水またはぬるま湯を入れ、かくはんする。(コップで3杯くらい)
※強く握りしめたとき、手に水気を感じる程度
- 温度計をさす。
- ダンボールで作ったフタをする。
※フタは虫が入るのを防ぎ、保温や防臭の効果がある。
- 生ごみを入れるたびに、よくかくはんする。
- 温度が上がれば、水分がとび生ごみの分解が進む。

生ごみの投入のコツ

- 温度が高く、風通しの良いところに置く。
※温度が低いと微生物の活動が弱まり、生ごみの分解が進まない。(温度は15℃以上が望ましい。)
- 生ごみは新鮮なうちに入れる。
- 大きいものは、小さく切ってから入れる。
※生ごみを小さく切ると、分解が速く、かき混ぜやすい。
- 一日の投入量は500g～600g程度を目安とする。
※少なくともかまいません
- 魚のあら、イカゴロを入れるときは、少量にするか、火を通すか、湯通しすると臭いを抑えられる。
- 生ごみを入れたら必ずかき混ぜる。

投入しないほうがよいもの

- ・ 腐った生ごみ
- ・ 塩分の多い生ごみ(塩鮭・塩辛・たくあんのぬか床など)
- ・ 大きな骨(鶏がら, 豚骨など)
- ・ 種(梅干し・かぼちゃ・スイカなど)
- ・ 貝殻(シジミ・アサリなど)

※大きな骨, 種類, 貝殻は分解に時間がかかる

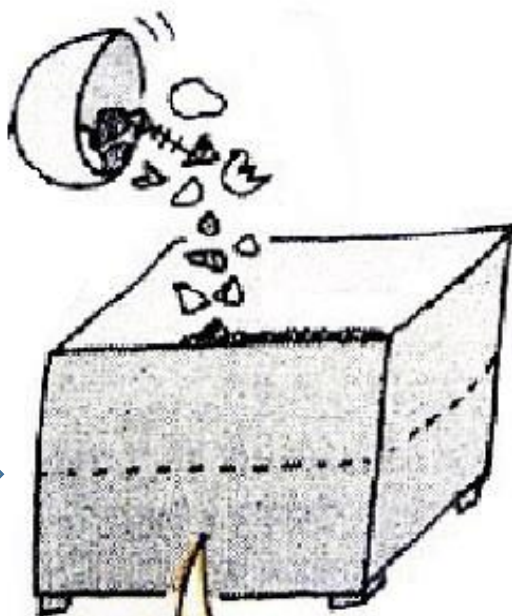
生ごみ堆肥のできるまで・・・

7

① 始めてから10日間くらい

生ごみ
投入！！

基材は
箱の深さの
半分くらい



最初は温度が
上がりません



よくかき混ぜて
空気を送ると微
生物が元気にな
るよ！！

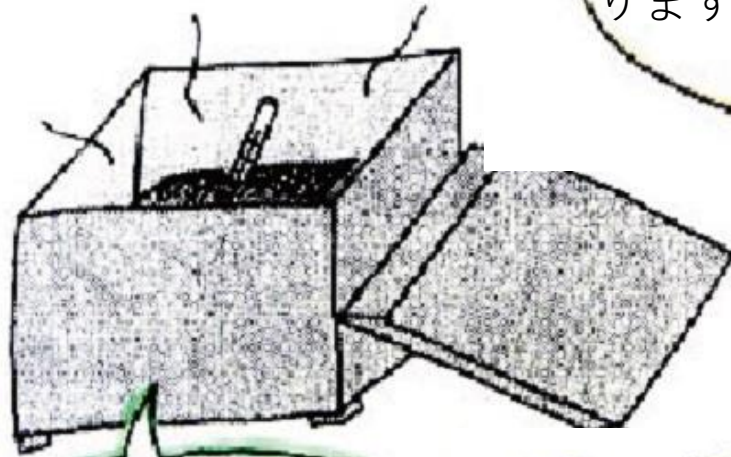


よくかき混ぜるのが
ポイントです！！



かき混ぜたあと
は虫が入らない
ようにフタをし
ます

② 2週間後～



わあ！

30℃くらいまで上がります

元気がないときは
米ぬかや使用済みの
揚げ油を少し入
れるといいです

元気がでた～



※温度が15℃以上であれば、ゆっくりでも発酵分解は進んで行くので大丈夫！

毎日生ごみを
入れてしっかり
かきまぜよう！

※温度が上がらないときや、小バエが発生したときは、米ぬかや廃油を入れると温度が上がります。

虫や虫の卵は40℃くらいで死滅します。
※入れる目安として米ぬかは一握り、廃油はコップ1杯くらいです。

もぐもぐ
うんうん！
働く微生物たち
おいしいおいしい

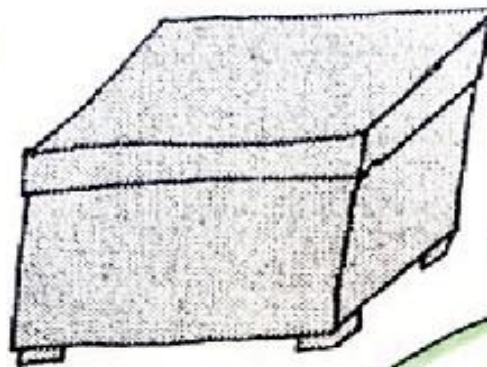
③ 2～3ヶ月後

生ごみの投入量は1日500gから600gを目安として3ヶ月位で終了します。

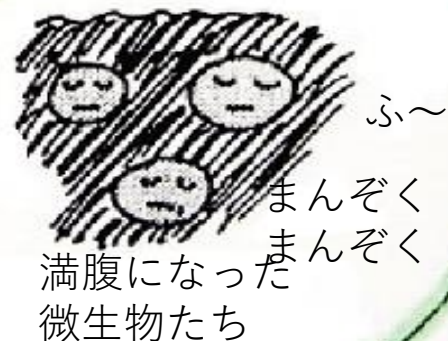
毎日の投入量が少なくても大丈夫です。
総投入量が50kgになるまで続けられます。

生ごみの発酵分解が遅くなり基材がべたついたりダマになってきたら生ごみの投入を終了します

※ダマは（団子状のもの）すりつぶしてください温度が上がります



おなかいっぱい

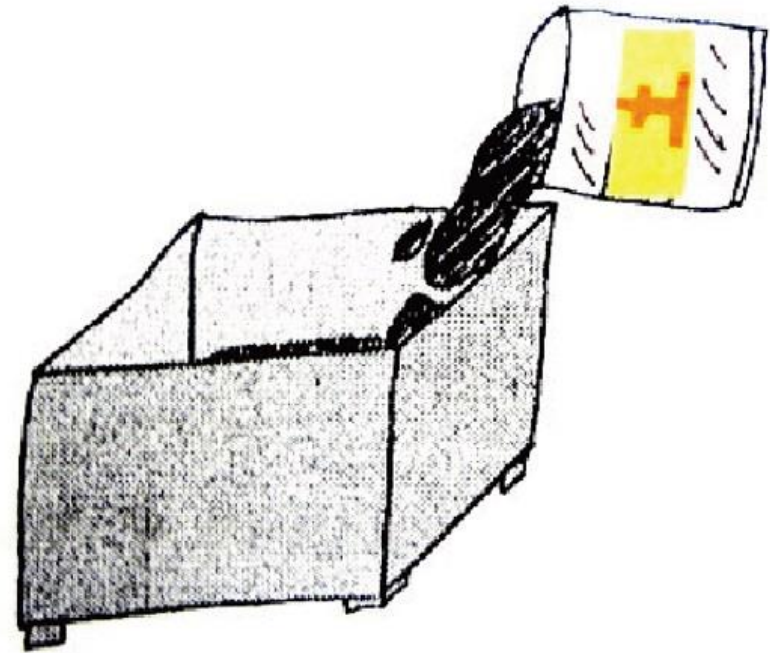


最後に入れた生ごみの形が見えなくなる(分解)まで水分調整をしながら1～2週間くらいかき混ぜます。
生ごみの形がなくなったら終了です。

発酵分解が終わるとサラサラした堆肥ができあがります。

④ 土を混ぜて さらに1～2ヶ月

堆肥1対土2の割合で混ぜ1～2ヶ月ほど寝かせ熟成させてから堆肥として使用します。



堆肥の保管はダンボールに入れたままでもビニール袋に入れ替えてもよいです



熟成した堆肥とは

微生物によって分解された肥料のことを指します



できた堆肥の使い方(目安)

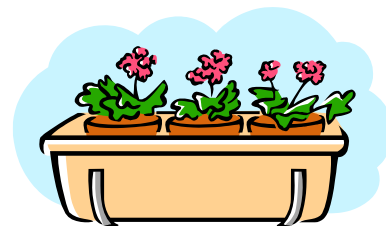
堆肥はどれくらい施せばいいの？

畑の場合

1 m²当たり 3 ～ 5 ℓ

プランターの場合

土の量の 10 % 程度



堆肥はどのように施せばいいの？

種や苗が直接堆肥に触れないように！

全面施肥

畑全体に施肥し、軽くすきこむ。
2週間くらい経ってから種や苗を植える。

植穴施肥

ひと掴み程度を入れ、土を 3 cm くらいかぶせ、その上に苗を植える。

溝施肥

畝の脇に溝を掘って堆肥を入れ、その上に土をかぶせてから種や苗を植える。

株元施肥

追肥時に、苗の株元や畝の肩部分に 1 ～ 2 掴み程度を施肥する。



成功のポイント

水分状態を50%位に！

強く握りしめた時、手に水気を感じる程度に！

生ごみは新鮮なうちに

水を切り

ベタベタにならないように。

小さく切って入れ

微生物が食べやすいように。

しっかりかき混ぜましょう！

微生物の働きを活性化するために酸素（空気）を送る。

そして、フタをしましょう！

防虫、防臭、保温のために。